

## 学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	山根 俊彦
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	都市博甲第2231号
学位授与年月日	2021年6月30日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	多文化共生教育の再構築のために —マジョリティの変容をめざす実践に着目して—
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 藤掛洋子 横浜国立大学 教授 四方田千恵 横浜国立大学 教授 松本尚之 横浜国立大学 教授 加藤千香子 江原由美子

## 論文及び審査結果の要旨

本博士論文の目的は、概念があいまいであり、外国人支援として展開されてきた「多文化共生教育」について、概念の生成過程を歴史的に分析し、マジョリティの変容や差別の解消を包含した教育実践へと再構築するための視座を考察することにある。研究視座は、白人性研究と日本人性研究、マジョリティの特権、ポジショナリティ、「善良なナショナリスト」（Hage, Ghassan）の概念が援用されている。

論文の構成は以下の通りである。第1章では、多文化共生教育の概念と多文化共生という用語と実践への批判を整理し、第2章では、先行研究で明確に位置づけられていない多文化共生教育の意味を生成過程から分析した。第3章では、日本の多文化共生政策と教育実践を整理した。第4章では、日教組全国教研と全朝教・全外教集会に提出された外国につながる子どもたちに関わる実践レポートを分析した。第5章では、教師たちが多文化共生、多文化共生教育をどのような意味で使用しているのかを読み解き、第6章では、在日外国人教育や多文化共生教育に取り組んで来た教師7名へのインタビュー分析を示した。第7章では、マジョリティの特権の自覚化、ポジショナリティの可視化、善意の差別に関する教師たちの実践事例を分析し、終章では、多文化共生教育の再構築のための視座を考察した。

本論文は、批判されることの多い多文化共生、多文化共生教育に着目し、これらの言葉が生成した歴史的経緯をたどり、当初の意味を確認しつつ、近接の在日朝鮮人教育・在日外国人教育や国際理解教育との関係の中で再配置した点に新規性がある。また、外国人支援が中心となっている現在の多文化共生教育に対し、マジョリティの変容や差別の解消をめざした多文化共生教育の再構築のために必要な視座を、膨大なテキスト分析とインタビューを通し提示した点は高く評価できる。

現代的レイシズムが広がる社会において、マジョリティの特権を可視化する実践が多文化共生教育の再構築のために必要であることを示した点は本研究／実践分野への大きな貢献 となると考える。

提出された論文に対し、iThenticate を用い既往文献との重複の有無を確認した。専門用語や一般的な事項の定義、参考文献の表題を除いて既往文献との重複はなく、剽窃、盗用の不正行為がないことを確認した。

以上から、本論文は学術的価値や新規性を十分に含んでおり、博士（学術）の学位にふさわしいと判断された。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。